

保険・年金
フォーカス欧州大手保険グループの2023年上
期末 SCR 比率の状況について(1)
ーソルベンシー II に基づく数値結果報告
(全体的な状況) ー

保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1ーはじめに

欧州大手保険グループの2023年上半期決算の発表が8月に行われており、それに伴い、ソルベンシー II 制度に基づく各種数値等も開示されている。

まずは、今回のレポートでは、欧州大手保険グループの2023年上期末の SCR 比率の水準等について、全体的な状況を報告する。

2ー欧州大手保険グループの SCR 比率の推移

欧州大手保険グループの SCR 比率 (= 自己資本 / SCR (Solvency Capital Requirement: ソルベンシー資本要件)) の制度導入時の2016年末から2023年上期末の推移については、次ページの図表の通りとなっている。

なお、Aviva は開示資料の説明で主として会社ベースの数値を使用しているため、監督ベースと会社ベースの2つの数値を掲載している。また、Zurich はソルベンシー II 制度の対象ではないが、参考のためスイスの制度である SST (スイスソルベンシーテスト) に基づく数値等を掲載している。

この図表によれば、過去からの推移の概要は以下の通りとなっていた。

- ・2016 年末から 2017 年末にかけては、市場環境が良好(金利の上昇、クレジットスプレッドの縮小、株価の上昇等)であったこともあり、各社とも SCR 比率を大きく上昇させていた。特に、内部モデル適用範囲の拡大等の SCR 比率の算出方法の変更等もあり、Generali は 29%ポイント、Aegon は 44%ポイントと大幅に水準を上げていた。
- ・2017 年末から 2018 年末にかけては、市場環境の悪化(金利の低下、株価の下落等)もあり、AXA の SCR 比率と Zurich の Z-ECM 比率が低下していた。
- ・2018 年末から 2019 年末にかけても、市場環境の悪化(金利の低下等)により、Allianz と Aegon の SCR 比率が大きく低下したが、AXA (米国の IPO によるプラスの影響) や Generali (規制上のモデル変更によるプラスの影響) 等の SCR 比率は上昇した。

- 2019年末から2020年末にかけては、COVID-19による市場環境の大きな変動があったものの、Zurichを除いては、ソルベンシー比率自体に大きな変化は見られなかった。一方で、ZurichのSST比率は市場リスクのウェイトがより高くなっているで、金利の低下と市場の変動の影響を大きく受けて、2019年末から2020年末にかけて、222%から182%へと40%ポイントと大きく低下した。
- 2020年末から2021年末にかけては、市場環境の好転の影響等により、各社ともソルベンシー比率が上昇している。特に、AXA、Aviva、Aegon、Zurichのソルベンシー比率は2桁台の大幅な増加となっている。
- 2021年末から2022年末にかけては、各社とも主として経済変動の影響(金利の上昇、クレジットスプレッドの拡大、株価の下落等)を受けて、自己資本のうちの調整準備金(reconciliation reserve)の残高が大きく減少したことを主因として、Zurich以外のソルベンシー比率は低下した。Zurichの場合、金利の低下が大きくプラスに影響して、SST比率は大幅に上昇した。

これに対して、2022年末から2023年上期末にかけては、各社それぞれの要因に基づいて、AXA、Allianz、GeneraliのSCR比率は上昇しているものの、その他の会社のSCR比率は低下している。

なお、各社のソルベンシー比率の変動の詳しい要因については、次回のレポートで報告する。

欧州大手保険グループのソルベンシー比率等の推移

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva (監督) |
|-----------------|----------|---------|----------|---------------|
| 2016年末 | 197% | 218% | 178% | 173% |
| 2017年末 | 205% | 229% | 207% | 169% |
| 2018年末 | 193% | 229% | 217% | 180% |
| 2019年末 | 198% | 212% | 224% | 183% |
| 2020年末 | 200% | 207% | 224% | 178% |
| 2021年末 | 217% | 209% | 227% | 205% |
| 2022年末 | 215% | 201% | 221% | 198% |
| 2023年上期末 | 235% | 208% | 228% | 183% |
| 2022年末→2023年上期末 | +20%ポイント | +7%ポイント | +7%ポイント | ▲15%ポイント |

| | Aviva (会社) | Aegon | Zurich (SST) | Zurich (Z-ECM) |
|-----------------|---------------|---------|-----------------|-------------------|
| 2016年末 | 189% | 157% | 204% | 125% |
| 2017年末 | 198% | 201% | 216% | 132% |
| 2018年末 | 204% | 211% | 221% | 124% |
| 2019年末 | 206% | 201% | 222% | 129% |
| 2020年末 | 202% | 196% | 182% | 115% |
| 2021年末 | 244% | 211% | 212% | - |
| 2022年末 | 212% | 208% | 267% | - |
| 2023年上期末 | 202% | 202% | 263% | - |
| 2022年末→2023年上期末 | ▲10%ポイント | ▲6%ポイント | ▲2%ポイント | - |

(※) Aviva(監督)は、監督ビューによるもので、Aviva(会社)は、会社の株主ビューによるものである。
ZurichのSST(スイス・ソルベンシー・テスト)は99.0%のVaR、Z-ECMは、社内指標の99.95%のVaRに基づいている。Zurichは、2019年までZ-ECM比率を中心に開示してきたが、2020年からはSST比率での開示を中心に据えることに変更しており、2021年以降の数値は開示されていない。

このように、SCR比率の推移については、各社の資本充実やリスクテイクへの方針の差異等を反映して、その動向は一律ではなく、また必ずしも市場環境に応じて類似のトレンドを示しているわけではない。

さらには、以下の理由等から、単純な各社間の絶対水準や年度間の推移の比較ができないことには注意

が必要になる。

- ①各社の生命保険と損害保険等の事業や地域別の構成比の差異等から、目標とする SCR 比率等が異なっている(例えば、Aegon は生命保険事業が中心だが、AXA、Allianz、Generali、Aviva、Zurich は生命保険事業も損害保険事業も大きな位置付けを占めており、さらにはAllianz等では資産管理事業も営業利益のうちの大きなウェイトを占めている)。
- ②事業の地域構成の差異からくる為替等の影響の程度が異なっている(例えば、Aviva は英ポンド、Zurich は米ドルと主要通貨や新興国通貨との為替レートが公表数値に大きな影響を与える)。
- ③ソルベンシー II 制度導入当初から数年間は、規制当局との交渉等を踏まえた内部モデルの適用範囲の拡大等による算出方法の変更を実施している会社もあり、一時的な要因による影響が大きなものとなっているケースも多かった(なお、その後も適宜、算出方法の見直しが行われてきており、引き続き一時的な要因による影響が無視できないものとなるケースもある)。

以下の図表は、各社の事業別の損益等の内訳を示しているが、IFRS 第 17 号(保険契約)の適用により、保険料の数値が必ずしも開示されなくなっている。

(参考) 欧州大手保険グループの事業別内訳(2023年上期)

(単位: 百万(ユーロ、ポンド、米ドル))

| | AXA フランス | Allianz ドイツ | Generali イタリア | Aviva 英国 | Aegon オランダ | Zurich スイス |
|-------|-------------|----------------|------------------|-------------|---------------|---------------|
| 保険料等 | 55,740 | 85,588 | 42,237 | - | 6,802 | - |
| 生命保険 | 24,528 | 40,410 | 25,888 | - | - | - |
| 損害保険 | 30,400 | 41,729 | 16,349 | 5,274 | - | 24,560 |
| 営業利益等 | 4,111 | 7,513 | 3,721 | 715 | 818 | 3,720 |
| 生命保険 | 1,643 | 2,521 | 1,813 | - | - | 939 |
| 損害保険 | 2,717 | 3,855 | 1,853 | 470 | - | 2,247 |
| 資産管理 | 188 | 1,426 | 498 | - | 74 | N.A. |

(※) 数字の単位は、AXA、Allianz、Generali、Aegonがユーロ、Avivaがポンド、Zurichが米ドル

保険料及び営業損益の全体数値には「その他」も含まれるため、生命保険と損害保険等の図表掲載の数値合計とは必ずしも一致しない。

医療保険の分類は各社によって異なる(例えば、AXA、Allianzは、生命保険、Aviva、Aegonは損害保険)。

AXA : 保険料は「Gross written premiums」、営業利益等は「underlying earnings group share」(持株その他が▲437)

Allianz : 保険料は「Total business volume(Statutory gross premiumsを含む)」、営業利益は「operating profit」

Generali : 保険料は「Gross written premiums」、営業利益は「operating results」(持株その他が202、調整▲125)

Aviva : 保険料は「Gross written premiums」(生命保険には有配当投資契約を含む)、営業利益は「Group adjusted operating profit before tax attributable to shareholders' profits」

Aegon : 保険料は「Premiums Received」、営業利益は、基礎利益「operating result」

Zurich : 保険料は「Gross written premiums」、営業利益は「Business operating profit」

Zurichにおいては、「Farmers」が、例えば営業利益で993 と大きな位置付けを占めている。

3—SCR 比率算定等に関する事項

この章では、SCR 比率算出等に関する事項について報告する。

ここで述べる項目については、基本的には、以下に挙げる、以前の保険年金フォーカスにおいて、報告した内容を繰り返しているが、一部データの最新化等を行っている。

- ・[「欧州大手保険グループの2022年末SCR比率の状況について\(1\)―ソルベンシー II に基づく数値結果報告―全体的な状況―」](#)(2023.4.3)
- ・[「欧州保険会社が2022年のSFCR\(ソルベンシー財務状況報告書\)を公表\(2\)―SFCRからの具体的内容の抜粋報告\(その1\)―」](#)(2023.6.19)

- ・「[欧州保険会社が 2022 年の SFCR\(ソルベンシー財務状況報告書\)を公表\(3\)－SFSCR からの具体的内容の抜粋報告\(その2\)－](#)」(2023.6.23)
- ・「[欧州保険会社が 2022 年の SFCR\(ソルベンシー財務状況報告書\)を公表\(4\)－SFSCR からの具体的内容の抜粋報告\(その3\)－](#)」(2023.6.28)

1 | SCR 比率の目標範囲

SCR 比率の目標範囲に相当する水準は、以下の図表の通りである。会社内部のソルベンシー比率と監督規制上のソルベンシー比率の両方を開示している Aviva については、会社内部のソルベンシー比率に基づく目標範囲を設定している。ただし、これらの目標範囲については、各社毎にその位置付けが異なっているので、単純な比較はできない。また、各社とも、適宜目標範囲等の見直しを行ってきており、必ずしも長期で固定されたものとはなっていない。

欧州大手保険グループのソルベンシー比率の目標範囲

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva (会社) | Aegon | Zurich (SST) |
|----|--------|---------|----------|---------------|--------|-----------------|
| 下限 | 目標190% | 180% | 130% | — | 地域別に設定 | 160% |
| 上限 | | — | — | 180% | | — |

(※) AvivaはWorking Range

例えば、AXA は 2020 年 12 月 1 日に行われた 2023 年に向けての戦略に関する投資家向けプレゼンテーションの中で、約 190%(140%のリスクアペタイトに 50pts のバッファー)を目標とするように修正することを公表している。

Allianz と Generali と Zurich は下限水準のみを公表している。

Aviva は Working Range という名称で水準設定しており、上限の 180%を超える超過資本は株主に還元されるとしている。

Aegon は地域別に目標を設定しており、以下の図表の通りとなっている。

Aegonの地域別ソルベンシー比率(目標範囲)

| | オランダ | 英国 | 米国 |
|-----------------|------|------|------|
| operating level | 150% | 150% | 400% |
| 最低配当支払レベル | 135% | 135% | 350% |

Zurich は、以前は社内指標の Z-ECM の目標範囲 100%~120%を設定していたが、2020 年から SST ベースの下限を 160%と設定している。この際に、SST の 160%は、AA の格付けの資本水準に相当しており、SST で 180%から 200%の範囲で事業を運営することを目指していると述べていた。

なお、ソルベンシー比率の水準毎の会社の対応方針をさらに明確にして開示している会社もある。

2 | SCR 等の算出方法(内部モデルの適用状況)

各社とも内部モデルを適用しているが、その適用対象については、母国に加えて、欧州の主要国やアジア等、実質的に米国を除く主要事業国を含めているケースが多い。米国については、各社とも同等性評価に基づき、米国 RBC によって算出したものをグループベースでは一定の換算を行うことで、全体の計算に反映している。

2022 年の SFSCR(ソルベンシー財務状況報告書)に基づくと、各社のソルベンシー II に基づく分散効果控除前の SCR 算出における内部モデルの適用比率(=内部モデルによる SCR/(内部モデル適用後の)全

体の SCR))は、次ページの図表の通りとなっている。

内部モデル適用比率については、AXA が 97.0%と 5 社の中では最も高くなっている。AXA の内部モデル適用比率については、XL 事業体について、2019 年に同等性評価から標準式に変更になったことにより大きく低下したが、2020 年には標準式から内部モデルに変更になったことから再び大きく上昇している。

これに比べて、Allianz と Generali の内部モデル適用比率は 70%台前半となっている。

なお、2021 年から 2022 年にかけての各社の内部モデル適用比率は、AXA、Allianz 及び Generali において低下したが、Aviva と Aegon においては上昇した。

こうした動きを含めて、各社の内部モデル適用比率の状況は、子会社の買収・売却等の事業戦略の差異の影響を受けている要素も大きい。

分散効果控除前のSCR算出における内部モデル適用比率

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva | Aegon |
|-------|-------|---------|----------|-------|-------|
| 2016年 | 97.2% | 76.0% | 64.5% | 65.5% | 73.6% |
| 2017年 | 97.1% | 75.4% | 61.1% | 71.0% | 64.6% |
| 2018年 | 96.1% | 73.6% | 68.3% | 78.9% | 70.2% |
| 2019年 | 79.3% | 73.5% | 79.9% | 77.9% | 66.4% |
| 2020年 | 97.2% | 76.3% | 80.9% | 81.2% | 69.8% |
| 2021年 | 98.1% | 74.7% | 75.2% | 84.4% | 71.5% |
| 2022年 | 97.0% | 72.7% | 70.4% | 86.1% | 75.8% |

分散効果による控除率の水準は、Generali を除けば、ほぼ 30%から 40%の範囲にある。

なお、各社の数値の水準の差異は、各社の生命保険・健康保険・損害保険の事業構成の比率等を反映したものとなっている。

分散効果による控除率

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva | Aegon |
|-------|-------|---------|----------|-------|-------|
| 2016年 | 33.1% | 38.4% | 21.8% | 38.4% | 52.9% |
| 2017年 | 31.8% | 38.6% | 22.5% | 33.9% | 38.9% |
| 2018年 | 33.2% | 38.0% | 21.8% | 37.0% | 39.2% |
| 2019年 | 30.6% | 34.8% | 20.5% | 37.7% | 37.7% |
| 2020年 | 33.7% | 33.6% | 25.8% | 34.4% | 40.2% |
| 2021年 | 32.2% | 34.6% | 24.7% | 36.3% | 39.1% |
| 2022年 | 31.4% | 36.0% | 26.5% | 39.8% | 38.7% |

3 | SCR 等の算出方法(長期保証措置の適用状況)

ソルベンシー I からソルベンシー II への移行における割引率や技術的準備金についての 16 年間にわたる移行措置、MA(マッチング調整)及び VA(ボラティリティ調整)といった長期保証措置の適用については、各国の保険市場の特徴(販売商品や資産運用市場等)に大きく依存している。

保険年金フォーカス「[欧州保険会社が 2022 年の SFCR\(ソルベンシー財務状況報告書\)を公表\(2\) - SFCR からの具体的内容の抜粋報告\(その1\) -](#)」(2023.6.19)で報告したように、Zurich 以外のソルベンシー II 制度下にある 5 社については、全社が VA を適用し、Aviva と Aegon の一部が、MA や技術的準備金に関する移行措置を適用している。これらの措置の適用による影響(2022 年末ベース)については、以下の

通りであり、Aviva がこれらの措置に大きく依存していることが示されている。なお、年度ごとの影響度の水準の差異は、VA の水準等の影響を受けている。

長期保証(LTG)措置及び移行措置の適用によるSCR比率への影響(2022年末)

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva | Aegon |
|---------------|---------|---------|----------|----------|---------|
| ①SCR比率(措置適用後) | 215% | 230% | 221% | 198% | 208% |
| ②SCR比率(措置適用前) | 176% | 186% | 165% | 78% | 185% |
| ③ 影響度(①-②) | 41%ポイント | 44%ポイント | 56%ポイント | 120%ポイント | 23%ポイント |

(※) 各社のSCR比率(措置適用後)は、SFCRで報告された数値に基づいている。

(参考)長期保証(LTG)措置及び移行措置の適用によるSCR比率への影響(2021年末)

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva | Aegon |
|---------------|---------|---------|----------|----------|---------|
| ①SCR比率(措置適用後) | 217% | 239% | 227% | 205% | 211% |
| ②SCR比率(措置適用前) | 162% | 185% | 170% | 80% | 182% |
| ③ 影響度(①-②) | 55%ポイント | 54%ポイント | 57%ポイント | 125%ポイント | 29%ポイント |

(※) 各社のSCR比率(措置適用後)は、SFCRで報告された数値に基づいている。

(参考)長期保証(LTG)措置及び移行措置の適用によるSCR比率への影響(2020年末)

| | AXA | Allianz | Generali | Aviva | Aegon |
|---------------|---------|---------|----------|----------|---------|
| ①SCR比率(措置適用後) | 200% | 240% | 224% | 178% | 196% |
| ②SCR比率(措置適用前) | 139% | 174% | 156% | 69% | 164% |
| ③ 影響度(①-②) | 61%ポイント | 66%ポイント | 68%ポイント | 109%ポイント | 32%ポイント |

(※) 各社のSCR比率(措置適用後)は、SFCRで報告された数値に基づいている。

4 | 自己資本の内訳

ソルベンシー II の資本要件に算入可能な各種自己資本は、劣後性や損失吸収性、期間といった資本適格性から Tier1~Tier3 に分類され、それぞれについて算入制限が設定されている。

各社とも、着実に Tier1 の割合を高めてきており、自己資本のうち、Tier1 の自己資本が 8 割から 9 割程度、さらに、Tier1(無制限)がそのうちの 8 割から 9 割程度(従って、全体の 7 割から 8 割程度)を占めている。

例えば、各社とも、既存の Tier1 や Tier2 の劣後債務について、グランド・ファザーリング・ルール(既得権認容ルール)を適用しているが、こうした債務については、早期償還等を行い、段階的にソルベンシー II 適格なものに変更してきている。

2023 年上半期末の自己資本の内訳を開示している会社もあるが、多くの会社は年末のみの開示となっているため、以下では 2021 年末と 2022 年末における自己資本の内訳を示している。

なお、Allianz については、2022 年から、それまで公表していた Own Funds Report の発行を止め、これに含まれていた情報については、Annual Report や SFCR に統合されたことにより、従来ベースの自己資本の内訳は公表されていない。

ただし、Allianz を含めて、2021 年末と比べて、各社とも主として経済変動の影響を受けての調整準備金(reconciliation reserve)(従って、Tier1(無制限))の残高が大きく減少していることから、全体の自己資本残高も 1 割~2 割程度と大幅に減少している。

その他、各社の資本戦略等を反映する形で、内訳は変動している。

なお、各社とも、Tier1(無制限)だけで、SCR の 100%水準を確保している。

¹ Tier1(無制限)は払込資本や剰余金等、Tier1(制限付)はグランド・ファザーリング・ルールに基づく劣後債務、Tier2は、劣後債務、Tier3は繰延税金資産等である。

自己資本の内訳(2022年末)

| | AXA | | Allianz | |
|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2021年 | 2022年 | 2021年 | 2022年 |
| 合計 | 620億ユーロ | 585億ユーロ | 860億ユーロ | 779億ユーロ |
| Tier1 | 510億ユーロ(82%) | 510億ユーロ(79%) | 754億ユーロ(88%) | 674億ユーロ(87%) |
| Tier1(無制限) | 442億ユーロ(71%) | 407億ユーロ(70%) | 693億ユーロ(81%) | —(—%) |
| Tier1(制限付) | 68億ユーロ(11%) | 57億ユーロ(10%) | 55億ユーロ(8%) | —(—%) |
| Tier2 | 105億ユーロ(17%) | 114億ユーロ(19%) | 95億ユーロ(11%) | 93億ユーロ(12%) |
| Tier3 | 5億ユーロ(1%) | 7億ユーロ(1%) | 11億ユーロ(1%) | 11億ユーロ(2%) |

| | Generali | | Aviva | |
|------------|--------------|--------------|---------------|---------------|
| | 2021年 | 2022年 | 2021年 | 2022年 |
| 合計 | 506億ユーロ | 463億ユーロ | 256億ポンド* | 187億ポンド* |
| Tier1 | 437億ユーロ(86%) | 402億ユーロ(87%) | 201億ポンド*(79%) | 141億ポンド*(76%) |
| Tier1(無制限) | 418億ユーロ(83%) | 385億ユーロ(83%) | 191億ポンド*(75%) | 132億ポンド*(70%) |
| Tier1(制限付) | 19億ユーロ(4%) | 17億ユーロ(4%) | 10億ポンド*(4%) | 9億ポンド*(5%) |
| Tier2 | 66億ユーロ(13%) | 58億ユーロ(12%) | 54億ポンド*(21%) | 43億ポンド*(23%) |
| Tier3 | 3億ユーロ(1%) | 4億ユーロ(1%) | 1億ポンド*(0%) | 3億ポンド*(2%) |

| | Aegon | |
|------------|--------------|--------------|
| | 2021年 | 2022年 |
| 合計 | 194億ユーロ | 163億ユーロ |
| Tier1 | 164億ユーロ(84%) | 136億ユーロ(83%) |
| Tier1(無制限) | 140億ユーロ(72%) | 117億ユーロ(72%) |
| Tier1(制限付) | 24億ユーロ(12%) | 18億ユーロ(11%) |
| Tier2 | 23億ユーロ(12%) | 22億ユーロ(13%) |
| Tier3 | 7億ユーロ(3%) | 6億ユーロ(3%) |

(※)()内の数値は、合計に対する割合

5 | SCR のリスク別及び地域別内訳

SCR のリスク別及び地域別内訳の開示については、以下の図表が示すように、各社の事業構成等を反映する形で、リスクの分類の方式等が異なっている。

リスク別では、各社とも市場リスクや信用リスクのウェイトが高くなっている。ここで、図表の「信用」に、①デフォルト、スプレッド拡大、格付変更のリスクを全て含めている会社と、②これらを一区分して開示している会社、がある点には注意が必要となる。

生命保険と損害保険のウェイトが共に高い会社を中心に、保険引受けリスクの構成比も高いものとなっている。オペレーショナル・リスクについては、ほぼ各社とも数%から1割程度の構成比となっている。

また、地域別内訳は、各社の地域別事業展開を反映したものとなっている。

以下は各社の数値が揃う 2022 年末の数値を比較したものである。

SCRのリスク別・地域別内訳(2022年末)

| AXA | | Allianz | | Generali | |
|---------------|-----|-----------------------|------|----------------------------|-----|
| リスク別内訳 | | <u>分散化効果前・税前ベース</u> | | | |
| 市場 | 43% | リスク別内訳 | | | |
| 生命保険 | 19% | 市場 | 48% | | |
| 損害保険 | 25% | 信用 | 8% | | |
| カウンターパーティ | 8% | 保険引受け | 27% | <u>分散化効果前ベース</u> | |
| オペレーショナル | 6% | ビジネス | 10% | リスク別内訳 | |
| | | オペレーショナル | 7% | 信用 | 20% |
| 地域別内訳 | | <u>市場リスクの内訳</u> | | 金融 | 41% |
| フランス | 22% | 金利 | 16% | 生命保険引受け | 13% |
| スイス | 8% | インフレ | ▲0% | 損害保険引受け | 18% |
| ドイツ | 9% | 信用スプレッド | 25% | オペレーショナル | 8% |
| ベルギー | 5% | 株式 | 45% | 地域別内訳 | |
| イタリア・スペイン | 5% | 不動産 | 13% | イタリア | 39% |
| 英国 | 4% | 通貨 | 2% | ドイツ | 14% |
| アジア | 16% | <u>リスク(分散化効果後・税前)</u> | | フランス | 18% |
| 国際 | 3% | <u>の事業別内訳</u> | | ACEER | 8% |
| AXA XL | 17% | 生命保険 | 52% | 国際 | 16% |
| 資産管理・銀行 | 3% | 損害保険 | 42% | 持株その他 | 5% |
| 持株等 | 8% | 資産管理等 | 6% | | |
| 事業別内訳 | | | | | |
| 生命保険・貯蓄 | 46% | | | | |
| 損害保険 | 42% | | | | |
| 持株 | 9% | | | | |
| 資産管理・銀行 | 3% | | | | |
| Aviva | | Aegon | | (参考) Zurich (Risk Capital) | |
| リスク別内訳 | | <u>分散化効果前ベース</u> | | リスク別内訳 | |
| 信用 | 24% | リスク別内訳 | | 市場 | 50% |
| 株式 | 14% | 生命保険引受け | 42% | 保険料及び準備金 | 25% |
| 金利 | 0% | 健康保険引受け | 4% | ビジネス | 10% |
| 他の市場 | 14% | 損害保険引受け | 1% | 自然災害 | 7% |
| 生命保険 | 23% | 市場 | 54% | 生命保険 | 6% |
| 損害保険 | 13% | 信用 | 4% | その他信用 | 2% |
| オペレーショナル | 12% | オペレーショナル | 9% | 事業別内訳 | |
| その他 | 0% | LAC-DT | ▲14% | 生命保険 | 40% |
| | | | | 損害保険 | 52% |
| | | | | 農業者保険 | 5% |
| | | | | その他 | 3% |

(※) Generaliの「ACEER」は、オーストリア、中東欧、ロシア、「国際」は、南欧、スイス、アメリカ、アジア等

なお、2023 年上半期末の数値を開示している会社の当該数値は、以下の通りとなっている。

SCRのリスク別・地域別内訳(2023年上半期末)

| Generali | Aviva | (参考) Zurich (Risk Capital) |
|------------------|-------|----------------------------|
| 分散化効果前ベース | | |
| リスク別内訳 | | リスク別内訳 |
| 信用 | | 市場 |
| 金融 | 22% | 保険料及び準備金 |
| 生命保険引受け | 39% | ビジネス |
| 損害保険引受け | 13% | 自然災害 |
| オペレーショナル | 18% | 生命保険 |
| | 8% | その他信用 |
| | | 1% |
| 地域別内訳 | | |
| イタリア | | 生命保険 |
| ドイツ・オーストリア・スイス | 36% | 損害保険 |
| フランス | 19% | オペレーショナル |
| 国際 | 17% | その他 |
| 持株その他 | 19% | 0% |
| | 9% | |
| | | 事業別内訳 |
| | | 生命保険 |
| | | 損害保険 |
| | | 農業者保険 |
| | | その他 |
| | | 54% |
| | | 22% |
| | | 10% |
| | | 7% |
| | | 6% |
| | | 1% |
| | | 40% |
| | | 53% |
| | | 5% |
| | | 2% |

4—まとめ

以上、各社のプレス・リリース資料等に基づいて、欧州大手保険グループの2023年上半期末のSCR比率の水準等について、全体的な状況を報告してきた。なお、2023年上半期は、IFRS第17号(保険契約)が適用される最初の報告数値になっているが、この影響等については別途報告することにする。

次回のレポートでは、各社のSCR比率の推移分析や感応度の推移の状況について報告する。

以 上